

公益財団法人 全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第76回 ビジネス文書実務検定試験 (8.7.5)

第 1 級

速 度 部 門 問 題

(制限時間10分)

試験委員の指示があるまで、下の事項を読みなさい。

〔 書 式 設 定 〕

- a. 1行の文字数を30字に設定すること。
- b. フォントの種類は明朝体とすること。
- c. プロポーショナルフォントは使用しないこと。

〔 注 意 事 項 〕

- 1. ヘッダーに左寄せで受験級、試験場校名、受験番号を入力すること。
- 2. 問題のとおり、すべて全角文字で入力すること。ただし、網掛けした漢字は同じ読みで間違っているため、正しい漢字に訂正すること。なお、網掛けする必要はない。
- 3. 長音は必ず長音記号を用いること。
- 4. 入力したものの訂正や、適語の選択などの操作は、制限時間内に行うこと。
- 5. 問題は、文の区切りに句読点を用いているが、句点に代えてピリオドを、読点に代えてコンマを使用することができる。ただし、句点とピリオド、あるいは、読点とコンマを混用することはできない。混用した場合はエラーとする。
- 6. 時間が余っても、問題文を繰り返し入力しないこと。

受 験 番 号

第76回 ビジネス文書実務検定試験

(8.7.5)

第1級 速度部門問題 (制限時間10分)

日本では、古くから木が身近な建材として用いられ、木造建築は
私たちにあって馴染み深いものだ。木材は、コンクリートや鉄骨な
どに比べ、二酸化炭素の^輩出が少ない。その環境性能が評価され、
大規模な木造建築が増えている。昨年に開催された大阪・関西万博
では、全長が約2キロメートルに及ぶ大屋根リングが、世界最大の
木造の構造物として話題となった。

大屋根リングは、京都にある清水寺の舞台で使われた工法で造ら
れた。木材に穴を開けて縦横に組み合わせ、穴の隙間にくさびを打
ち込み一体化させる。また、つなぎ目の強度が不足する部分には、
金属製のくさびを打ち込んで補強するという現代の技術を使い、大
きな構造物を実現させた。この工法によって、水平方向に動く揺れ
が分散されるため、建物の^{東海}を防ぐことができる。

大規模な構造物は、コンクリートや鉄骨によって造られるものが
ほとんどだった。最近では、鉄骨並みの強度と木のぬくもりを併せ
持つ集成材が、建材として使用されることが増えている。例えば、
CFRP（炭素繊維強化プラスチック）は、高い強度だけではなく
軽さも兼ね備えている。木材にこれを組み合わせることによって、
耐久性と耐火性が大幅に向上した建材となった。

現在、すでに東京では、木造と鉄骨のハイブリッド構造の建物が
建築されている。また、ある企業は2041年の^{感性}を目指して、
木造70階建てのビルを建てるプロジェクトを進めている。これか
らは、脱炭素やサステナビリティに加え、木の良さを意識した建物
がより増えていくだろう。大規模な木造建築は、古くからの技術を
生かしながら現代的にアップデートされ、私たちが住んでいる街の
風景を変化させるかもしれない。